



## 痛いむち 榎本 栄次

柔和な人々は幸いである。その人たちは地を受け継ぐ。  
マタイによる福音書 5:5

ある年の寒い冬を思い出す。敬和学園高等学校では月曜日の礼拝は校長が担当になっている。どんな話をしようか。

近頃、生活指導で頭が痛い。飲酒や喫煙、暴力、加えて寮で盗難事件が頻繁に起きている。「敬和学園はキリスト教主義の人格教育をし、一人ひとりを大切にする学校」という「校長の言葉」を信じて来たという生徒も多い。しかし実際来てみるとこの現実は何だ、ということだろう。「聞くと見るでは大違い」などという声も聞こえてくる。嘘は言っているつもりはないけれど、現実は思い通りに単純にはいかない。生活指導主任の注意も宗教主任の説教も効果がみられえない。被害者も加害者も生徒の中に相当ストレスが溜まっているのだろう。生徒を責められない。月曜の朝、家を出て阿賀野川の橋を渡るとき橋の欄干で頭をふっ飛ばしてほしい気にさえなるのだった。

前日に新島襄のテレビを見ていた。同志社英学校の創立期、学生たちの問題行動が起きた。学校はそのことに苦慮したが解決が見つからない。その時、新島は学生の前に立って言った。

「度重なる学生の問題行動だが、この責任は諸君にはない。しっかりと指導ができていない学長に責任がある。今から私は学長を罰する」。こう言って新島は鞭を振り上げて自分の体を打ち始めた。驚いた教頭をはじめ職員や学生が駆け寄りそれを止めた。この事件で学生たちは深く反省して学校は立ち直ったという話であった。有名な新島のむち事件である。

「よし、これで行こう」次の日、私は新島襄の真似をしようと家を出た。校庭のニセアカシヤの枝を切って礼拝に臨んだ。いつものように賛美歌を歌い、聖書が読まれた。

「柔和な人たちは幸いである。その人々は地を受け継ぐ」。

「今読んでもらった『柔和な人』というのは『ハンマーで打ち砕かれた人』という意味があ

ります。人は打ち砕かれたいと柔和にはなれないのでしょうか。君たちは敬和学園に様々な気持ちで入学してきたことだと思う。いい学校と聞いたから、親や友だちに勧められたから、他にいくところなくて・・・いろいろですね。しかし今は同じ学校で学んでいる仲間です。何とかしていい学校になってほしいと願っていることでしょう。しかし現実には悲惨なものです。他の学校では見られないようなことが起きています。校長として私はみなさんにすまないと思っています。信頼して送り出してくださっている保護者の方々にも申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし悪いのは君たちではない。ちゃんと指導のできない校長に責任があるのです。そこで今日私は、ダメな校長を罰します」。

こう言って持って来た木の枝で体を思いっきり何度も打った。不思議に痛さは感じない。もつと打ちたかったが途中で止めた。

ただ、新島の時とは違ってだれも止めに入らない。しーんと静まり変な白けた雰囲気になった。生徒らの悔い改めなど無縁の世界があった。何事もなかったように礼拝は終わった。教務室に戻ると皆押し黙っている。A 教諭が「昨日、新島襄のテレビを見ましたよ」と言って笑っていた。「甘いですね。まねしてもだめですよ、校長」と言われているような気がした。

昼休みになって腕が痛くて仕方がない。内出血してパンパンに張れた腕に湿布でも貼ってもらおうと保健室に行った。優しいO教諭がはさみでシャツを切って手当てをしてくれた。そして忠告をくれた。

「校長先生、大変ですね。でも生徒たちも痛いんですよ。校長一人痛い目を見せて解決することではないですね。生徒が言っていました。あんなことされたら困るんだよなって」。

鞭よりも痛かった。そうだよな。お涙頂戴のように校長一人がいい気になっていても生徒たちの事情もあるし、そんな簡単なことではないのだろう。彼らには余計にストレスになったのかもしれない。その夜、寮から報告が入った。

「また盗難がありました」。 つづく

## ❖ なんどきですか❖

・80歳代の母親が50歳代の寝たきりの娘を刺し殺して自殺した事件があった。また元農水産省事務次官が44歳の長男を刺し殺した事件の判決が下りた。高齢化社会で次々に起きる事件である。家族とは何だろうかと考えさせられる。

どんな事情があるにせよ、人の命を奪う権利は誰にもない。許されてはならないことだと思う。

(by E.E.)

### 投稿 京都俳句きらら会他

- |                     |     |
|---------------------|-----|
| ・天下布武夢の城跡秋の風        | 周豊  |
| ・どんぐりの落下する音閑(しず)かなり | 公女  |
| ・朝もやの大江の里に柿灯る       | 茶香  |
| ・木漏れ日がコスモスの影生みにけり   | 星児  |
| ・光る海カモメ乱舞の空青く       | 海棠  |
| ・澄みし空比叡を仰ぐわが病窓      | 枯骨  |
| ・鬼の留守袖の香載せて一人膳      | 小次郎 |
| ・雲過ぎて日は稲掛けに山茶花に     | 岳   |
| ・病人の足元あやし霜の朝        | 虚舟  |

## ◇おさそい◇

◆2020年1月12日(日) 16:00~1月13日(月・祝) 16:00  
〈エネルギーを考える8〉「核に依存しない世界へ向けて」  
講師：近藤 恵 (合同会社 AgroKraft 代表社員、環境エネルギー政策研究所福島事務所長)

講師：牛山 泉 (足利大学理事長、大学院特任教授)

◆2020年1月25日(土) 13:30~17:30

修学院フォーラム「いのち」

NK「ためしてガッテン」や「きょうの健康」に出演した禁煙外来の創始者が語る！  
「禁煙とキモノのナットクな話」

講師：高橋 裕子 (京都大学医学部大学院特任教授、京都大学附属病院禁煙外来担当医)

◆2020年2月8日(土) 13:30~17:30

修学院フォーラム「社会」

「北東アジアの地政学的変動とキリスト教徒の責任」

講師：佐藤 優 (作家・元外務省主任分析官)

♡ありがとうございました♡

関西セミナーハウス活動センターへの  
賛助・寄付金

2019.11.1-11.30 順不同・敬称略

八田 一郎、横野 朝彦、株式会社柴橋商会京都支店、  
浅田 涼子、町田 耕一、竹中 百合子、喜多村 やよい、  
森 静子、株式会社田中工務店、株式会社三原工務店、  
シュペネマン クラウス、牛尾 宣夫、長谷川 義紘、  
白子 宗令、伊藤 宗邦、佐野 千枝子、久保田 展史、  
中村泰洋園、小久保 正、鳥井 清司、小林 哲夫、  
社会福祉法人修光学園、松本 嘉一、島田 恒、匿名。

🔔クリスマス献金にご協力お願いします。☆

## 四季だより

### ゆきむし ～雪虫の舞い～

関西セミナーハウス庭園担当 榎 廣光

ふとカレンダーを見るとたったの一枚になってしまっていた。いやおうなしに年の瀬を迎えなければならぬ。

残りもみじを目にしながら風の穏やかな小春日和の日、杉林の小径に足を踏み入ると綿毛がフワフワと漂っていた。目を凝らしてよく見ると、かすかに動いている。生き物だ。大きさは5ミリほど。辺りを見回すと数匹飛んでいる。雪虫というそう。はじめ見つけたときは綿毛か野草の種子と思ったが、営みをもった生命体であった。生活に追われ日頃は気づかないし、気にもとめない生き物たちである。人の知らないところで色々な生命の営みがくり広げられていることに神秘を感じる。

雪虫はアブラムシの仲間であらゆる全国的に生息しているようだ。別名「わたむし」とも。愛称は地域によって異なり、因みに京都では「白子屋(しらこや) お駒(こま) はん」と呼ばれている。語源は単なる語呂合わせとか。雪虫が飛び交うと1~2週間で雪が降ると言われている。クモ糸の塊や雪虫のことを「雪迎え」と呼び、季語のひとつになっている。また雪虫のオスは餌をとる口がなく、一週間ほどで一生涯を終える。メスも産卵のあと命を終えるそう。なんとも儚い。

こういった小さな生き物たちに季節感や時の移ろいを人は教わっている。近代的快適な暮らしばかりを求めるゆえに季節感や時の移ろいを忘れがちである。

季節感や季語への想いを大切にしていきたい。